

## 『浜松市民文芸第69集』を発行しました



表紙は、令和5年度第71回市展で、市長大賞を受賞した彫刻「鍵盤からの試み」山口貴一さんの作品です。

裏表紙は、静岡大学地域創造学環の学生さんたちの制作です。少女が本を読む姿の上に、文芸で広がる世界とあります。

『生成AIの普及が進む今こそ、自ら考え書くことを大切にしたい!』そんな思いで発行しているのが、「浜松市民文芸」です。静岡県内の市町で発行される文芸誌の中で、最も長い歴史を持っています。今年は、小説・児童文学・評論・随筆・詩・短歌・定型俳句・自由律俳句・川柳の9部門に、1991点、486名の市民の皆さんの応募がありました。自ら書き、自ら読み(詠み)、文学・文芸に親しみ、挑戦した作品が掲載されています。ぜひご覧ください。

※クリエート浜松5階の浜松文芸館廊下に閲覧用書架があり、市民文芸をご覧いただけます。

※お求めの方は、1冊700円で、文芸館窓口とアクトシティチケットセンターで販売しています。

(4月末現在、販売用は残り40冊ほどになりました。)

文芸館ホームページにも掲載しました。ご覧ください。

<https://www.hcf.or.jp/facilities/bungei.html>



今年度は、節目の70集となります。69集では、高校生が評論部門と詩の部門で3名、市民文芸賞に選ばれました。また、複数の部門で受賞された方もいらっしゃいました。多くの世代の皆さんの応募をお待ちしています。

新しい応募要項は、7月頃から配布できる予定です。69集から、自作・未発表であることを、自分でチェックする欄を新設しました。ご協力願います。